

学習院ドイツ文学会『研究論集』4(2000)
正誤表

ページ		誤	正
12	3行目	七選定候	七選 <u>帝</u> 候
20	6行目	同士	同 <u>志</u>
21	11行目	プロハガンダ	プロ <u>パ</u> ガンダ
50	11行目	またく	ま <u>っ</u> たく
51	下から9行目	選帝公	選 <u>帝</u> 候
72	下から7行目	オーバーハンゼン	オーバーハ <u>ウ</u> ゼン

グリム童話の変遷

— KHM¹⁾ 153 Die Sterntaler を例に
8つの版を比較考察 —²⁾

虎頭恵美子

序 —本研究の目的—

1章 —比較する版および方法について—

2章 —比較分析—

3章 —まとめ—

グリム兄弟、ドイツの言語学者ヤーコプ・グリムと古代ゲルマン文学者
ヴィルヘルム・グリムは、民衆の間に伝えられたメルヒェンを非常に価値
あるものと認めていた。そのため、1つのメルヒェンについても版を新た
にすることに加筆あるいは削除などの修正を施し、47年もの歳月をかけて
人々にメルヒェンを提供し続けた。当時ドイツは、ナポレオンの占領下
にあり、彼等のメルヒェン収集は、人々にドイツ人としての民族意識を目覚
めさせるのに大きな貢献をした。

グリム兄弟のメルヒェン集『グリム兄弟によって集められた子どもと家庭の
メルヒェン集』には、大きい版として7版、小さい版として10版がある。
そのほかにグリム兄弟がクレメンス・ブレンターノに送ったまま返却され
ず、ブレンターノの遺品として見つかったエーレンベルク稿(手書稿)が最
も古いメルヒェンとして存在している。私は、小さい版の資料をまだ完全
には入手していないため、1810年版以後は大きい版についてのみ言及する。

1) Kinder-und Hausmärchen の略

2) この小論は1997年3月29日、学習院大学ドイツ文学会研究発表会での口頭発表を
元にまとめなおしたものである。

現在、1810年版(エーレンベルク稿)、1812年版(初版第1巻)、1815年版(初版第2巻)、1819年版(第2版)、1825年版(選集・初版)、1837年版(第3版)、1857年版(第7版)、1858年版(選集・第10版)が既に一般に読みやすい形で出版されている。また、1992年夏ドイツで、カッセル・グリム兄弟博物館館長 Dr. Lauer 他の好意により、私の研究に必要な、1840年版(第4版)、1843年版(第5版)、1850年版(第6版)のメルヒェンも手に入れることができたので、8つの版が比較可能になった。そこで、エーレンベルク稿に掲載されたメルヒェンのうち1857年版まで8つの版を通して比較可能な27話を選びだし、それらのメルヒェンにどのような文章の変遷が見られるかを一字一句、文章を忠実にたどりながら検討する。そして、研究全体としては、27話を比較分析した後に、語り手が違う場合、物語・詩などから転載した場合、それぞれにグリム兄弟の修正の仕方に方法論上の相違があるのかどうかを把握したい。

いま8つの版を通して比較可能なメルヒェンが27話あると述べたが、カリフォルニア大学のドイツ文学教授 John M. Ellis は、著書『ONE FAIRY STORY TOO MANY』1983年(『一つよけいなおとぎ話』新曜社'93年刊行)の中で、8つの版を通して比較に使えるメルヒェンの数は12話しかないと述べている。グリム兄弟が「混合した」と注に書いているメルヒェンなどを、彼の考えで厳選し省いたためである。私が研究対象としている Die Sterntaler は、彼の研究対象にはなっていない。私の場合は、Lutz Röhrig も「混合はあらゆる口承文芸の本質である」と言及しているので、現時点では覚え書き程度の話でも、エーレンベルク稿にあればすべて研究対象とした。

したがって、エーレンベルク稿8番「Armes Mädchen」と1812年、1819年、1837年、1840年、1843年、1850年、1857年版に掲載されている同じメルヒェンを比較分析し、それらの変遷を考察したい。

なお、先行研究について私がまとめたものは、『昔話の成立と展開』(昔話研究 土曜会編1991年)および『RHODUS Nr. 10 Zeitschrift für

Germanistik』(筑波ドイツ文学会編・1994年)に発表したもので、ここではそれを繰り返さない。

1 章 一比較する版および方法について一

比較する版については、『RHODUS Nr. 10』で詳しく述べたので、ここでは現在出版されている版およびドイツで入手した当時の原書第4版、5版、6版を使用したと記すことで、それ以上は立ち入らないことにする。

比較する方法について述べると次のようになる。

- a. エーレンベルク稿8番「Armes Mädchen」が、その後の7つの版ではどのように文章の手直しがされていったかを細かく分解して比較する。
- b. 原則としてツークごとに第7版から区切っていく。ツークが長い場合は比較しやすい長さに区切る。
- c. この比較の方法は、小澤俊夫の考案によるものである。この方法は、メルヒェンの筋と版ごとの変更の作業、そして前後左右の関係を示すことでメルヒェン全体が展望できるため、メルヒェンの特徴を把握するのに有効である。それに対してクルト シュミット³⁾のように文章を一行ずつ区切り並列して比較する方法では、その一行に関しては、8つの版あるいは小さい版を含めた版の相違を把握できるが、メルヒェン全体の特徴が把握しにくい難点がある。ただし、シュミットの比較の長所は、大きい版と小さい版に掲載されているメルヒェンであれば、両方を加えて比較している点にある。例えば「狼と7匹の子山羊」である。

しかし、「Armes Mädchen」については、小さい版の50番、メルヒェン集の一番最後に掲載されているのだが、あまりにメモ的なためか、彼の比較からははずれている。

3) Die Entwicklung der Grimmschen Kinder- und Hausmärchen 1932 Max Niemeyer Verlag

2章 一比較分析一

「Armes Mädchen」（「貧乏な女の子」）は、グリム兄弟が注釈書において「あいまいな記憶を頼りに記述した。だれか補足して訂正していただきたい」と述べているとおり、著しく短いメモ書きである。ヤーコブ・グリムは、Jean Paul の長編小説「Die unsichtbare Loge」（Berlin 1793, S 214）（見えないロジ）の17章からの抜き書きを「Armes Mädchen」という題でエーレンベルク稿に8番として記録した。そして初版では、Achim von Arnim の短編小説「Die drei liebevollen Schwestern und der glückliche Färber」（Berlin 1812）に出てくるモチーフが追加され、メルヒェン集の83番「Das arme Mädchen」として第2版以降第7版まで153番「Die Sterntaler」として掲載されている。日本では「星の銀貨」と訳されている場合が多いのだが、私は原語に近い「星のターラー銀貨」と訳したい。余談ではあるが、Taler という通貨単位は18世紀半ばまで流通したドイツの銀貨で、ボヘミアの鉱山 St. Joachimsthal にちなんでつけられた。1 Taler は3 Reichsmark に相当する銀貨である。Die Sterntaler（星のターラー銀貨）の底本については2つ挙げたが、Prof. Dr. Heinz Rölleke の調査から次のことが推測できる。すなわちその推測は、(1)グリム兄弟が子ども時代を過ごしたシュタイナウでこの物語を Frau Gottschalk から聞いていた。(2) Frau Gottschalk はすでに Jean Paul を読んでいたというものである。

また、ヴィルヘルムの息子 Herman Grimm の記憶によれば、母親である Dorothea Grimm geborene Wild (Dortchen Wild in Kassel) に起源があるのではないかとやっている。ヴィルヘルム・グリムの Handexemplar（彼の書き込みのある初版本）にはその指摘は見あたらない。むしろ、ヤーコブが聞いた覚えがある話を書物からとって再話したと考えるほうが正しいであろう。

Arnim の（原版）オリジナルの初版本には次のように書かれている。

(*originalausgabe 1812, S. 231-233*)

Ja, im dunklen Wald da ging ich in meiner Verzweiflung, und sah wenig auf den Weg, und hörte auch nicht auf die Vögel und auf das Gewild, sondern jammerte nur immer, daß ich keinen Vater, wie andre Kinder hätte. So mochte ich wohl eine halbe Stunde gegangen seyn, da begegnete mir ein artig Kind, das bettelte mich an, und bat um ein Schürzchen, und alle meine Verzweiflung wurde Mitleid und ich gab ihm meine blau und weißgestreifte Schürze, die mir die gute Frau Hillen zum letzten Christkindchen bescheert hatte. Bald kam ein andres Kind und bat um ein Jäckchen, denn ihm friere; ich gab ihm mein braunes Jäckchen, das ich nur alle Sonntage trug. Und dann kam ein drittes Kind, und bat um einen Rock, und ich gab ihm meinen braunen Rock; und endlich kam ein viertes Kind, da war es schon dunkel geworden, und wimmerte und sagte, daß es kein Hemde habe, da zog ich auch mein Hemde aus, und wollte es ihm reichen <*das letzte Kind ist der Jesusknabe; die Mutter Maria winkt...*> den Sternen, und es fielen silberne Münzen in mein ausgespanntes Hemdchen, die ich sorgsam darin zusammenwickelte.

8つの版の比較分析は以下で記述するので、そちらを参照していただきたい。

次に各版における特徴を指摘する。

- ・10年版 (エーレンベルク稿) では
 - a. 記憶を頼りに書いたメモ書きである。
 - b. 1番と7番があるのみである。この部分は記憶を頼りに何とか書きあげたという文章である。

・12年版では

- a. Das arme Mädchen とした。
- b. Es war einmal ein armes kleines Mädchen, むかしむかしあるところ
に一人の貧乏で、小さい女の子がいました、という典型的なメルヘン
の発端句で始まっている。村田経和のデータによれば、Es war ein-
mal…と Es waren einmal…の発端句を持つ『グリム童話』は、第
7版全体の三分之一を占めるということである。
- c. 過去形で語られている。
- d. 説明文が多くなっている。たとえばその例は、12年版の[1]の*のマー
クを参照。
- e. 距離と時間を語っている。分析した[6]の加筆にある。endlich kam es
in Wald, und es war schon dunkel geworden, やつとのことで森に着
いたという文章で森という場所を言うことで、どのくらい歩いたかを
推測させ、もうすっかり暗くなってしまっていたという文章で、その
時の時刻が、冬であれば夕方を推測させている。
- f. 結末句は典型的にメルヘンのスタイルを保っている。

lauter harte, blanke Thaler…

aber vom allerfeinsten Linnen, …

ward reich für sein Lebtag.

硬質の純度の高いターラー銀貨ばかり…、しかもじょうとうな麻でで
きた、…一生金持ちになった。メルヘンの構造に見られる貧乏とい
う“欠如”は、女の子の慈悲深さの代償として、最高のもので“充足”
されている。

・19年版では

- a. 題名と番号を 153 Die Sternthaler とした。
- b. 読むメルヘンとして文章が推敲された。その例は[1]の2と5の文章
に見られる。
- c. キリスト教的な考えが加筆された。[2]の2の加筆の文章に見られる。

im Vertrauen auf den lieben Gott…，この加筆は第7版まで保存されている。さらに一ヶ所③の*1の加筆の文章に見られる。

und sagte: „Gott segne dirs!”この加筆も第7版まで保持された。

- d. 出会った男の会話が直接話法で語られた。③の9に見られる変更である。der sprach: „Ach, gib mir doch etwas zu essen, ich bin so hungerig.”

この変更は第7版まで保持された。

- e. 読むメルヒェンに文章を書きかえた。この部分は、分析した④の12と16の変更に見られる。12年版の sagte を jammerte und sprach に、そして12年版の und gab sie dem Kind. を und gab sie ihm. にした。メルヒェンを耳で聞くうえでは、それを、あるいは彼に、というより、12年版にあるように、子どもに、といったほうが聞いていてわかりやすいと思う。

・37年版では

- a. 副文を語りやすいメルヒェンの文章にした。①の2と3の変更である。19年版の die Kleider, die es auf dem Leib trug を die kleider auf dem Leib に19年版の Brot, das es in der Hand hielt を Brot in der Hand, にした。19年版と比べると贅肉がとれてすっきりしたことがわかる。

- b. :や!を削除したり, を加筆するなど、文章を細かく検討している。これは③の1の加筆に見られる。Es reichte ihm das ganze Stückchen Brot, und sagte “Gott segne dirs” このコンマの加筆は、und すなわち dann を意味し、reichte と sagte が同時ではないことを表している。時間の経過を微妙に聞き手に感じさせる。この加筆は、40年版と43年版と保持されたが、50年版で再び削除され、その削除は57年版まで保持された。さらに一ヶ所、⑦の*マークの2と3のコンマの加筆があるが、こちらの場合は成功していると思う。

研究を始めた当初は、このように細かいところまで捨てるべきかどうか

迷ったが、グリムが思うところあってコンマ一つまでおろそかにして
いない姿勢を知った今では、記述しておいてよかったと思う。

c. 少女が考えた内容を加筆した。分析⑥の4の加筆で *niemand sieht dich*, これは57年版まで保持された。

・40年版では

a. 正書法がまだ確立されていない。③の3 *gieb* および6の *gieng* に見られる。

そのほか⑥で動詞を *kam* から *gelangte* に変更した以外、37年版とほぼ同じである。

・43年版では

40年版とまったく同じで手を加えていない。

・50年版では

①の*の1で *endlich* を、⑦の*1で *und das war* を加筆して文章を整えたほかには大きな変更は見られない。

・57年版では

a. コンマを四ヶ所加筆した。

①の*1、2、3、4のコンマである。1は、*kein kammerchen mehr hatte*, のコンマで、19年版の2で変更した文章に初めてコンマをつけた。2は、*darin zu wohnen*, のコンマで、50年版で削除したのだが、ここで再び加筆した。3は、*kein Bettchen mehr*, のコンマで、40年版で削除したが再び加筆した。4は、*darin zu schlafen*, のコンマで、50年版で削除したがここで再び加筆した。これらの作業は文法上からのみならず、読み手にメルヒェンを最良の状態で渡せるようにという配慮からなされたように思われる。そのほか正書法の改訂が見られ、*Die Sterntaler*, *ging* となった。以上各版におけるヴィルヘルムの手直しを検討した。

3章—まとめ—

第2版のキリスト教的考えの加筆と創作児童文学的性格について述べる。

「星のターラー銀貨」は、ヤーコプ・グリムが1810年に記憶を頼りに書物から記録し、1812年からは、ヴィルヘルム・グリムが書物を参考に再話をして出版した。グリム兄弟は教育的な話として子どもに好ましい影響を与えると考えたのであろう。当メルヒェンをエーレンベルク稿から第7版まで大切に保存していった。さらに第2版161話の中から子ども向きの話を選んで小さい版(選集)50話を出版する際にも「星のターラー銀貨」をその中に入れた。当該メルヒェンの分析結果をみると、エーレンベルク稿2番「小さいネコと小さいネズミのこと」そして6番「おおかみ」における分析結果とは全く異なる結果が現れたことがわかる。すなわち初版、第2版、第3版での変更が非常に多く、第4版、第5版はほぼ同文であった。特に第2版では、当時子どもの教育に強い関心を持ちはじめた母親たちとその子どもをおそらく意識して、キリスト教的な考えを取り入れ、教育的な配慮をしたように思われる。また、文章語として整えたり、会話体に変更を施して読みやすくし、その結果、版を重ねるごとに創作児童文学的性格がより濃厚になっていった。これらの変更は、兄弟の年譜からもわかるのだが、ヤーコプ27才、カッセル博物館に勤務し始めた時期より、ヴィルヘルムも選帝公図書館書記として仕事を始め、兄弟がマールブルク大学から名誉博士号を授与され、ゲッティンゲン大学の教授時代までの間に行われた。あえて推測するなら、社会的に責任ある地位に就いた頃より文学的才能を発揮し始め、次第に名誉ある地位に就くに従いメルヒェンを格調高い文学的童話集へと完成させていったのである。今回は、グリム童話集の五分の一強を占める書物から採用したメルヒェンの一つを考察した。私の研究が8話しか終えていない現状では未だ全体を見通しての結論を述べられないが、全体を俯瞰するために、すべての版を個別にテキストに従って検討することが必要だと思われる。

1998年夏、ダルムシュタットのドクトル・クラウス・ドーデラー教授のアドバイスで「ターラー銀貨をもっているのだーれ」という昔からの遊びがあることがわかった。また友人のレナーテ・シュトラウスの力添えでその楽譜も入手できたので下記に載せる。ここに深く感謝の意を表したい。

Wer hat den Taler?

Taler, Taler, du mußt wandern
 von dem einen zu dem andern.
 Das ist schön, das ist schön,
niemand darf den Taler sehn!

The image shows a musical score for the song 'Wer hat den Taler?'. It consists of three staves of music in a 3/4 time signature. The melody is written on a treble clef staff. The lyrics are written below the notes. The first line of music corresponds to the first line of lyrics: 'Ta-ler, Ta-ler, du mußt wandern von dem ei-nen zu dem'. The second line of music corresponds to the second line of lyrics: 'an-dern. Das ist schön, das ist schön, ni-mand darf den Ta-ler'. The third line of music is a short phrase corresponding to the final line of lyrics: 'sehn!'. The score ends with a double bar line.

Altes, volkstümliches Spiellied. Singend lassen die Kinder einen Stein oder eine Murmel in den Händen versteckt, wandern. Vom ratenden Kind aufgerufen; muß der jeweilige Spieler seine Hände vorzeigen. Derjenige, bei dem sich der »Taler« findet, kommt zum Raten.

第2章 一比較分析一

エーレンベルク稿8番

1810年版、1812年版、1819年版、1837年版

1840年版、1843年版、1850年版、1857年版

凡例

- または — ……前の版と異なる文章または単語と記号。その版に書かれている文章又は単語と記号を示す。
1—又は2—のごとく各版の通し番号をふる。
- ※— または ※— ……前の版にはあり、削除された文章又は単語と記号。前の版に書かれている文章又は単語と記号を記す。1※—又は2※のごとく各版の通し番号をふる。
- *—又は*— ……前の版にはなく、新たにつけ加えられた文章又は単語と記号。つけ加えられた文章又は単語と記号を記す。記述のない場合は文中を参照のこと。1*—又は2*のごとく各番号の中で番号をふる。
- 注 ……文章又は単語等の筆者による説明。その説明を記す。注1—又は注2のごとく各番号の中で番号をふる。
- () ……筆者による補足。
- × ……前の版と異なる。
- ≠ ……前の版と少し異なる。
- = ……前の版とほぼ同じ。

1810年版

1812年版

Hs. Jacob Grimm; Einzebl. (217/8 x 178/9); grau; Wz.: Teil eines S);
Rückz. leer.

KHM 1818 (1), Nr. 83, S. 382-383; die Anmerkung S. LV1.

8

Armes Mädchen

Kindermärchen von dem armen Mädchen,
ohne Abendbrot, ohne Eltern, ohne Bett, ohne
Haube u. ohne Fehler,

1

X

83.
Das arme Mädchen.

¹Es war einmal ein armes, kleines Mädchen,² dem war Vater
und Mutter gestorben; es hatte kein Haus mehr in dem es
wohnen³ und kein Bett mehr in dem es schlafen konnte⁴ und
nichts mehr auf der Welt, als die Kleider, die es auf dem Leib
trug, und ein Stückchen Brod in der Hand, das ihm ein Mitlei-
diger geschenkt hatte; ⁵ es war aber gar fromm und gut.

- 1—~~83~~ 83 Das arme Mädchen
- 1*— Es war einmal ein... Kleines...
- 2— dem war Vater und Mutter gestorben,
- 2*— es hatte kein Haus mehr in dem es wohnen,
- 3— und kein Bett mehr,
- 3*— in dem es schlafen konnte,
- 4— und nichts mehr auf der Welt, als die Kleider, die
es auf dem Leib trug,
- 5— und ein Stückchen Brod
- 4*— in der Hand, das ihm ein Mitleidiger
geschenkt hatte;
- 6— es war aber gar fromm und gut.

2

X

es hinaus,

¹* Da ging

1*— Da ging es hinaus,

なし

3

X

¹und unterwegs begegnete ihm ein armer Mann, der bat
es so sehr um etwas zu essen, da gab es ihm das Stück Brod;
dann ging es weiter,

1*— und unterwegs begegnete ihm ein armer
Mann, der bat es so sehr um etwas zu essen,
da gab es ihm das Stück Brod; dann ging es
weiter,

なし

1819年版

1837年版

4 133: Die Sternbaler

X ¹ Es war einmal ein kleines Mädchen, dem war Vater und Mutter gestorben, ² und es war so arm, daß es kein Kämmerchen mehr hatte darin zu wohnen, und kein Bettchen mehr, ³ darin zu schlafen, und gar nichts mehr, als die Kleider, die es auf dem Leib trug, ⁴ und ein Stückchen Brot, das es in der Hand hielt und das ihm ein mitleidiges Herz noch ⁵ geschenkt hatte. ⁶ Es war aber gar gut und fromm.

- 1— 題名 153 Die Sternbaler
 1* — armee, 1* — und
 2 — es was so arm, daß es kein Kämmerchen mehr hatte darin zu wohnen.
 3 — darin zu schlafen.
 4 — und gar nichts mehr. 2* —
 5 — Brot, das es in der Hand hielt und das ihm ein mitleidiges Herz noch geschenkt hatte. 6 — Es

X ⁷ Und weil es so von aller Welt verlassen war, ging es im Vertrauen auf den lieben Gott hinaus ⁸ ins Feld.

- 7 — Und
 1* — weil es so von aller Welt verlassen war.
 2* — im Vertrauen auf den lieben Gott ~
 3* — ins Feld.

X ⁹ da begegnete ihm ein armer Mann, ¹⁰ der sprach: »Ach, gib mir doch etwas zu essen, ich bin so hungerig.« ¹¹ Es reichte ihm das ganze Stückchen Brot, und sagte: »Gott segne dir!«, und ging weiter.

- 8 — da
 9 — der sprach: »Ach, gib mir doch etwas zu essen, ich bin so hungerig. <
 10 — Es reichte ihm das ganze Stückchen Brot
 1* — und sagte »Gott segne dir! <
 11 — und ging weiter.

133: DIE STERNTALER

+

Es war einmal ein kleines Mädchen, dem war Vater und Mutter gestorben, und es war so arm, daß es kein Kämmerchen mehr hatte darin zu wohnen, und kein Bettchen darin zu schlafen, und gar nichts mehr, als die Kleider, dem Leib, und ein Stückchen Brot in der Hand, das ihm ein mitleidiges Herz geschenkt hatte. Es war aber sehr gut und fromm.

- 1— 題名 153 DIE STERNTALER
 2 — die kleider auf dem leib,
 3 — Brot in der Hand 1* — und
 2* — noch

Und weil es so von aller Welt verlassen war, ging es im Vertrauen auf den lieben Gott hinaus ins Feld.

+

4 —

+

begegnete ihm ein armer Mann, der sprach: »Ach, gib mir doch etwas zu essen, ich bin so hungerig.« Es reichte ihm das ganze Stückchen Brot, und sagte: »Gott segne dir!«, und ging weiter.

- 5 — Da 3* — : 6 — ach
 7 — <. 1* — , 4* — :
 6* — ! 8 — .

' 10

' 12

4

X

^{1*}da kam ein Kind, und sagte: „es friert mich so an meinem Kopf, schenk mir doch etwas, das ich darum binde.“ da thät es seine Mütze ab und gab sie dem Kind.

1* — 全文

なし

5

X

^{1*}Und als es noch ein bisschen gegangen war, da kam wieder ein Kind, und hatte kein Leibchen an, da gab es ihm seins; und noch weiter, da bat eins um ein Röcklein, das gab es auch von sich hin.

1* — 全文

なし

6

X

^{1*}endlich kam es in Wald, und es war schon dunkel geworden, da kam noch eins und bat um ein Hemdlein, und das fromme Mädchen dachte: es ist dunkle Nacht, da kannst du wohl dein Hemd weggeben, und gab es hin.

1* — 全文

なし

119

≠
da kam ein Kind, das jammerte und sprach: ¹² Es friert mich so an meinem Kopf, schenk mir doch etwas, womit ich ihn bedecken kann! ¹³ Da that es seine Mütze ab und gab sie ihm.

12 — das jammerte und sprach: 13 — Es
14 — womit ich ihn bedecken kann! <
15 — Da 16 — ihm

≠

137

¹⁰ Da kam ein Kind, das jammerte, und ¹¹ es friert mich so an meinem Kopf, schenk mir doch etwas, womit ich ihn bedecken kann! ¹² Da hat es seine Mütze ab und gab sie ihm. ¹³

9 — Da 1* — , 6* — :
10 — es 11 — Kopfe 7* — !
2* — . 12 — tat 3* — ,

≠
als es noch ein Bischen gegangen war, ¹⁷ kam wieder ein Kind, und hatte kein Leibchen an und fror, ¹⁸ da gab es ihm seins, und noch weiter, da bat eins um ein Röcklein, das gab es auch von sich hin! ¹⁹

17 — Bischen 3* — da 4* —
1* — und fror 18 —

≠

Und als es noch eine Weile gegangen war, ¹³ kam wieder ein Kind, und hatte kein Leibchen an, und fror, da gab es ihm seins; und noch weiter, da bat eins Röcklein, das gab es auch von sich hin!

13 — eine Weile 1* — ,
2* — . 14 — : — .

≠
es in einen Wald, und es war schon dunkel geworden, da kam noch eins und bat um ein Hemdlein, und das fromme Mädchen dachte: es ist dunkle Nacht, da kannst du wohl dein Hemd weggeben; und gab es auch noch hin! ¹⁹ Endlich kam

19 — Endlich 1* — einen 5* — ,
6* — , 20 — ; 2* — auch noch

≠

Endlich kam ¹⁴ ein Wald, und es war schon dunkel geworden, da noch eins, und bat um ein Hemdlein, und das fromme Mädchen dachte: Jes ist dunkle Nacht, niemand sieht dich, da kannst du wohl dein Hemd weg geben; und gab es auch noch hin. ¹⁵

1* — , 2* — , 3* — ,
15 — > 4* — niemand sieht dich,
16 — weg geben 5* — <
17 — das Hemd

'10

die aber allemal so oft
ein Stern sich putzte unten einen hübschen Tha-
ler fand u.s.w



J Pauls uns. Loge 1. p. 214.

'12

X
7 Da fielen auf einmal die Sterne vom Himmel und
waren lauter harte, blanke Thaler, und ob es gleich sein Hand-
lein weggegeben, hatte es doch eins an, aber vom allerfeinsten
Linnen, da sammelte es sich die Thaler hinein und ward reich
für sein Leben.

Zu dem armen Mädchen. No. 84. *(lies: 83.)*

Nach dunkeler Erinnerung aufgeschrieben, mögte es jemand
ergänzen und berichtigen. Jean Paul gedenkt seiner, unsichtb.
Loge I, 214. Auch Arnim hat es in den Erzählungen S. 231. 232.
benutzt.

7 — Da fielen auf einmal die Sterne vom Himmel
und waren lauter harte, blanke Thaler,
1* — und 以下全文

119

≠

¹⁹ 21
 Und wie es so stand und gar nichts mehr hatte,
 fielen auf einmal die Sterne vom Himmel und waren lauter, harte,
 harte Thaler, und ob es gleich sein Herdlein weggegeben, ²⁰ hatte
 es ¹⁹ ein Reuss ²¹ vom allerfeinsten Linnen. Da sammelte es sich die
 Thaler hinein und ward reich für sein Lebtag.

1* — und
 21 — wie es so stand und gar nichts mehr hatte,
 2* — so 7* — doch 22 — ein neues
 8* — , aber 23 — .

137

≠

Und wie es so stand, ¹⁸ und gar nichts
 mehr hatte, fielen auf einmal die Sterne vom Himmel. Und
 waren lauter, harte blanke Thaler, und ob es gleich sein
 Herdlein Weg gegeben, so hatte es ein neues an vom
 allerfeinsten Linnen. Da sammelte es sich die Thaler hinein,
 und ¹⁹ war reich für sein Lebtag.

1* — , 2* — , 18 — Taler:
 19 — weg geben 3* — , 20 — war

153.

Die Sternthaler.

7
1

Es war einmal ein kleines Mädchen, dem war Vater und Mutter gestorben, und es war so arm, daß es kein Kämmerchen mehr hatte darin zu wohnen, und sein Bettchen nicht darin zu schlafen, und gar nicht mehr die Kleider auf dem Leib, und ein Stückchen Brot in der Hand, das ihm ein mitleidiges Herz geschenkt hatte. Es war aber gut und fromm.

1 — 姓名 153 Die Sternthaler
1* — , 2* — ,

153.

Die Sternthaler.

=

Es war einmal ein kleines Mädchen, dem war Vater und Mutter gestorben, und es war so arm, daß es kein Kämmerchen mehr hatte darin zu wohnen, und sein Bettchen nicht darin zu schlafen, und gar nicht mehr als die Kleider auf dem Leib, und ein Stückchen Brot in der Hand, das ihm ein mitleidiges Herz geschenkt hatte. Es war aber gut und fromm.

7
2

Und weil es so von aller Welt verlassen war, ²ging es im Vertrauen auf den lieben Gott hinaus ins Feld.

2 — gieng

=

Und weil es so von aller Welt verlassen war, ging es im Vertrauen auf den lieben Gott hinaus ins Feld.

7
3

Da begegnete ihm ein armer Mann, der sprach 'ach, ⁵lieb mir doch etwas zu essen, ich bin so hungrig!' Es zeigte ihm das ganze Stückchen Brot, und sagte 'Gott segne dich,' und ⁶ging weiter.

3 — lieb 4 — .
5 — , ' 6 — gieng

=

Da begegnete ihm ein armer Mann, der sprach 'ach, lieb mir doch etwas zu essen, ich bin so hungrig!' Es zeigte ihm das ganze Stückchen Brot, und sagte 'Gott segne dich,' und ging weiter.

1850 年版

1857 年版

153.

Die Sternstaler.

≠

11

Es war einmal ein kleines Mädchen, dem war Vater und Mutter
ter gestorben, und es war so arm, daß es kein Kämmerchen mehr
hatte darin zu wohnen und kein Bettchen mehr darin zu schlafen,²
und niemand gar nichts mehr als die Kleider auf dem Rücken und ein
Stückchen Brot in der Hand, das ihm ein mitleidiges Herz geschenkt
hatte. Es war aber gut und fromm.

1※ — , 2※ — ,
1* — endlich 3※ — ,

153.

4 Die Sterntaler

≠

Es war einmal ein kleines Mädchen, dem war Vater und
Mutter gestorben, und es war so arm, daß es kein Kämmer-
chen mehr hatte, darin zu wohnen, und kein Bettchen mehr,
darin zu schlafen, und endlich gab nichts mehr als die Kleider
auf dem Leib und ein Stückchen Brot in der Hand, das ihm
ein mitleidiges Herz geschenkt hatte. Es war aber gut und
fromm.

1 題名 153 Sterntaler
1* , 2* ,
3* , 4* ,

=

2

Und weil es so von aller Welt verlassen war, ging es
im Vertrauen auf den lieben Gott hinaus ins Feld.

Und weil es so von aller

≠

Und weil es so von aller Welt verlassen war, ging es
im Vertrauen auf den lieben Gott hinaus ins Feld.

2 — ging

≠

3

Da besegnete ihm ein armer Mann, der sprach
"ach, gib mir etwas zu essen, ich bin so hungrig." Es reichte ihm
das ganze Stückchen Brot, und sagte "Gott segne dir", und ging
weiter.

1 — gib 4※ — , 5※ — ,

≠

Da be-
segnete ihm ein armer Mann, der sprach "ach, gib mir etwas zu
essen, ich bin so hungrig." Es reichte ihm das ganze Stückchen
Brot, und sagte "Gott segne dir", und ging weiter.

1* — , 3 — ging

'40

'43

≠

4

Da kam ein Kind³ das
 sammerte, und sprach 'es feiret mich so an meinem Koyfe, thut mir
 doch etwas, womit ich ihn beeden kann.' Da that es
 seine Wäge ab, und gab sie ihm.

3K — . 1* — .
 4K — . 7 — that

=

Da kam ein Kind das sammerte, und sprach 'es feiret
 mich so an meinem Koyfe, thut mir doch etwas, womit
 ich ihn beeden kann.' Da that es seine Wäge ab, und
 gab sie ihm.

=

5

Und als es noch eine Weile
 gegangen war, kam wieder ein Kind, und hatte kein Leibchen
 an, und fror: da gab es ihm sein; und noch weiter, da hat
 ein um ein Weidlein, das ga: es auch von sich hin.

=

Und als es noch eine Weile gegangen war,
 kam wieder ein Kind, und hatte kein Leibchen an, und
 fror: da gab es ihm sein; und noch weiter, da hat eine
 um ein Weidlein, das gab es auch von sich hin.

≠

6

Er gelangte es in einen Wald, und es war schon dunkel geworden, da
 kam noch eins, und hat um ein Weidlein, und das fremde Weid-
 chen dachte 'es ist dunkle Nacht, niemand sieht dich, da kannst
 du wohl dein Hemd weg geben.' Und gab das Hemd auch noch
 hin.

8 — gelangte
 1* — : 5K — :

=

Er gelangte es in einen Wald, und es war schon dunkel
 geworden, da kam noch eins, und hat um ein Weidlein,
 und das fremde Weidlein dachte 'es ist dunkle Nacht,
 niemand sieht dich, da kannst du wohl dein Hemd weg
 geben;' und gab das Hemd auch noch hin.

50

657

Da kam ein Kind bes Jammerte und sprach 'es friert mich so an meinem Kopfe, schenk mir etwas, womit ich ihn bedecken kann.' Da that es seine Mütze ab und gab sie ihm.

6

4

6※ — , 7※ — ,

Da kam ein Kind, das jammerte und sprach 'es friert mich so an meinem Kopfe, schenk mir etwas, womit ich ihn bedecken kann.' Da tat er seine Mütze ab und gab sie ihm.

4

1* — , 4 — tat

noch eine Weile gegangen war, kam wieder ein Kind und batte für Leibchen und Brot: da gab es ihm sein: und noch weiter, da bat eine um ein Röcklein, das gab es auch von sich hin.

8

5

8※ — , 9※ — ,

Und als es noch eine Weile gegangen war, kam wieder ein Kind und hatte kein Leibchen und Brot: da gab es ihm sein: und noch weiter, da bat eine um ein Röcklein, das gab es auch von sich hin.

8

1※ — an 5 — ;

erlangte es in einem Wald, und es war schon dunkel geworden, so kam noch ein Kind und bat um ein Hemdlein, und das fromme Mädchen dachte 'es ist dunkle Nacht, da sieht dich niemand, du kannst wohl dein Hemd weggeben,' und zog das Hemd ab und gab es auch noch hin.

6

10※ — , 1* — da
11※ — da 2 — ,

Endlich gelangte es in einen Wald, und es war schon dunkel geworden, da kam noch eins und bat um ein Hemdlein, und das fromme Mädchen dachte 'es ist dunkle Nacht, da sieht dich niemand, du kannst wohl dein Hemd weggeben,' und zog das Hemd ab und gab es auch noch hin.

=

6 — weggeben

'40

'43

==



Und wie es so stand, und gar nichts mehr hatte, fielen auf einmal die Sterne vom Himmel, und waren lauter harte Klappe Thaler: und ob es gleich sein Gemüthe weg gegeben, so hatte es ein neues an dem allerfeinsten Sinnen. Da sammelte es sich die Thaler hinein, und war reich für sein Zehlag.

9— Thaler

==

Und wie es so stand, und gar nichts mehr hatte, fielen auf einmal die Sterne vom Himmel, und waren lauter harte Klappe Thaler: und ob es gleich sein Gemüthe weg gegeben, so hatte es ein neues an dem allerfeinsten Sinnen. Da sammelte es sich die Thaler hinein, und war reich für sein Zehlag.

50

57

≠
7

Und wie es so stand¹² und gar nichts mehr hatte, fielen
auf einmal die Sterne vom Himmel, und waren lauter harte blanke
Taler: und ob es gleich sein Hemdlein weg gegeben, so hatte es
hin neues an¹⁴ und ~~was~~ ¹⁴war vom allerfeinsten Linnen. Da sammelte
es sich die Taler hinein und war reich für sein Lebtag.

12※ — , 1* — und das war

—

Und wie es so stand
und gar nichts mehr hatte, fielen auf einmal die Sterne vom
Himmel, und waren lauter harte blanke Taler: und ob es
gleich sein Hemdlein weggegeben, so hatte es ein neues an, und
das war vom allerfeinsten Linnen. Da sammelte es sich die
Taler hinein und war reich für sein Lebtag.

4 — Taler 5 — weggeben
1* — ,

Die Sterntaler KHM 153

— Entstehung und Entwicklung des
Märchens von der handschriftlichen
Urfassung bis zur letzten Ausgabe —

Emiko Koto

Die Sammlung und ständige Überarbeitung der Volksmärchen, womit sich die Brüder Grimm neben ihrem Hauptberuf intensiv beschäftigt haben, vollzog sich über fast 50 Jahre.

Für meine Studie wurden 27 Märchen, die von der handschriftlichen Urfassung bis zur letzten Ausgabe verglichen werden konnten, ausgewählt. So wurde es möglich, einen genauen Vergleich durchzuführen und festzuhalten, wann welche Änderungen durch die Brüder Grimm vorgenommen wurden.

Dieser Aufsatz ist eine Vergleichsanalyse der verschiedenen Ausgaben des Märchens "Die Sterntaler", das die Brüder Grimm aus Büchern entnommen haben; anschliessend ein kurzer Kommentar.

"Die Sterntaler" hat Jacob Grimm im Jahre 1810 seiner Erinnerung nach Jean Pauls Roman "Die unsichtbare Loge" entnommen. Danach hat Wilhelm Grimm nach der 2. Auflage aus verschiedenen Büchern Motive entnommen und nacherzählt.

Die Brüder Grimm werden den guten Einfluss des Märchens auf die Kinder bedacht haben. Deswegen haben sie das Märchen nicht nur in der grossen, sondern auch in der kleinen Ausgabe aufgenommen. Ich werde mich jedoch lediglich mit der grossen Ausgabe befassen, da mir die kleine Ausgabe noch nicht vollständig zur Verfügung steht.

In diesem Märchen sind grosse Abwandlungen zwischen der 1., 2. sowie der 3. Ausgabe zu verzeichnen, jedoch keine Änderung zwischen der 4. und 5. Ausgabe. Besonders am Text der 2. Ausgabe lässt sich gut erkennen, dass sich die Brüder Grimm des Interesses der Mütter dieser Zeit für die Erziehung ihrer Kinder bewusst waren. Sie haben daher eine Umänderung des Märchens in christlicher und pädagogischer Weise vorgenommen. Des weiteren ist anzunehmen, dass die Brüder Grimm als Professoren einen höheren geistigen Reifegrad erreicht hatten, und aus dem Volksmärchen ein „literarisches Märchen“ machen wollten.

Ich bin derzeit leider noch nicht in der Lage zu einem zusammenfassenden Schluss für alle 27 Märchen zu kommen, da meine Studien noch nicht abgeschlossen sind.